

タスク3 シラバスと教科書

授業計画を立てるとき、何を教えるのか、学習項目の計画（シラバス）を考えるのは一つの大事な作業です。しかし、学習項目を一からすべて手作りすることはなかなか難しいので、通常は決まった教科書をベースに授業計画を立てることが多くなります。

今日のタスクでは、様々な日本語の教科書を実際に見ながら、その教科書がどんな種類のシラバスデザインでできているかを考えましょう。その学習者にはどのテキスト、シラバスが適当でしょうか？このテキストでどんな教え方ができるでしょうか。

教科書名	シラバス
外国人の子どものための日本語こどものほんご2	
こどもの日本語	
現代日本語コース中級 I	
文化初級日本語 I	
みんなの日本語 I・II	
はじめのいっぽ	
日本を話そう	
待遇表現	
日本語中級 J301	
入門日本語	
SITUATIONALFUNCTIONAL JAPANESE	

ワンポイントメモ

シラバスの種類

A. 構造シラバス

「～は～です」→「～は～の～です」→「～は～ですが、～は～です」のように文法のやさしいものから難しいものへ積み上げ式に学ぶことができるように学習項目が配されている。

B. 場面シラバス

「買い物に行く」「郵便局で手紙を出す」などのように場面の設定を第一に考えたシラバス

C. トピックシラバス

「お正月」「日本の経済」のようにトピックを中心に形成されたシラバス

D. 機能シラバス

「依頼する」「断る」「謝る」「感謝する」のような発話意図、機能を中心に形成されたシラバス

より深く学びたい人のために